



## 損をしないための国際マナー

特定非営利活動法人 国際人材創出支援センター 理事長  
(元ITU-T SG3議長)

まつだいら  
松平 つねかず  
恒和



### 1. はじめに

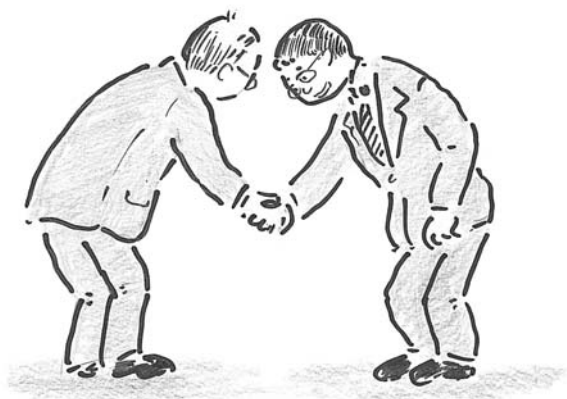
国際マナー？ 行儀作法？ 今更そんなお堅いコト言われてもネェ、と読者諸兄姉の渋い表情が浮かびます。試しに「manner」を英和辞典で引いてみると確かに行儀、礼儀などという訳語が出てきますがほかに風習、習慣といった意味もあります。これまで長年にわたって日本ITU協会の「実践セミナー」で国際会議のノウハウなどについてお話ししてきましたが、国際会議に出る出ないはともかく、グローバル社会で諸外国の皆さんと仕事や折衝をするに当たっては、日本人があまり気付いていないような、ちょっとした習慣を身に着けていると余計な損をしないという気がしています。というわけで、以下トリビア雑知識としてお読みください。

それよりも大事なのは相手の目をしっかり見て、手をしっかり握ること。日本のお辞儀の衝動が出たら、相手の手を握る前にまずお辞儀をして、その後、改めて背筋を伸ばして握手をする。これなら自らの礼儀も守り、相手も敬意を抱くでしょう。それから、帽子をかぶっていたら脱ぐ、そして手袋も外してください（ただし女性はこの限りにあらず）。

握手の際の要注意としては男性が女性と握手するケースです。厳密に言うところの場合は女性から手を差し伸べるのを待って、ということになるのですが、今は男女平等の世の中ですから、あまり気にしなくてもよいかも。ただ、女性と握手する場合は男性同士のときよりも軽めにした方がよいです。

### 2. 挨拶

外国人との御挨拶と言えは握手。ここで日本人がよく犯す誤りは握手をしながらついお辞儀をしてしまうという癖。日本人のお辞儀の習慣は麗しいものですが、この習慣が深くDNAに刻まれている我々は他人との挨拶に自然に頭を下げてしまう。しかし、テレビや新聞の写真で日本人の政治家なりエライ方が外国の高官にお辞儀をしながら握手をしている姿を見るとそれだけで立場を弱めているように見え、それは損というものです。頭を下げて握手するのは相手が王様とか高貴な方の場合だけで、それ以外は人間的に対等な立場として頭を下げる必要はない、というか下げてはいけません。



日本人同士が握手すると…

### 3. 会話

握手と同じように挨拶で大事なのが交わす言葉です。もちろん日本人には語学のハンディがありますが、だからと言って寡黙であるというのは明らかに損です。例えば、宿泊しているホテルで朝エレベータに乗る。ドアが開くと先客がいる。知人ではない。こんな場合、日本だったらお互いに無言。視線すら合わせない。それがマナーと言えはかもしれません。しかし外国では違うようです。小さな箱に偶然居合わせた御縁とでもいうか、この場合は一言でよいですからせめてグッドモーニングの挨拶を交わす。先方が天気の話でもすれば相づちを打ちましょう。こうした会話は相手に対して敵意を抱いていないという簡単な相互確認のようなものです。そしてエレベータが出口階に着いたら一応「お先にどうぞ (after you !)」と言う。相手が女性ならこれは必須。レディーファーストは中東や中国などにはない習慣かもしませんが外国では一応心得ておくべきでしょう。そして、自分より後にエレベータから降りる人、若しくは入れ違いに乗る人があるならちょっとドアを押さえてあげましょう。

エレベータの例のとおり、他人同士でも結構言葉を交わす習慣は日本（少なくとも東京などの大都市）にはあまりないかもしれません。歩道なり廊下を歩いていてほんのちょっと肩が触れただけでも「Sorry !」とか「Excuse me !」と言



ってほほえむ。これをやらないと無礼ということになります。でも、車をぶついたりモノを壊したりしたときは逆に絶対「Sorry」とは言わない。利害が絡むときは別の話なのです。

#### 4. 社交

会議にわざわざ出席して寡黙で通すというのは本末転倒もよいところですが、会議室の外でも黙っているのはいただけません。会議のプロセスは会議室の中だけで済むわけではありません。むしろ会場外、いわゆるロビーで展開される折衝や会話の方が実質的に重要です。

この「ロビー」というのは文字どおりの会議室近辺のロビーのみならず、広義に場外を示しています。会議では必ず行われるコーヒープレイク（英国ではTea break）、そして会議に付随してよく開催されるレセプション、昼食会、夕食会。こうした習慣は会議参加者同士がお互いに知り合い、腹を探り合い、情報を収集し、作戦・戦略を練る上で極めて重要かつ有益な場です。例えばグラスを片手にワイワイガヤガヤのレセプションパーティ。狙いをつけた相手と会話が始まります。

こんなときのっけから仕事の話始めるのはやほというもの。もちろん初対面なら自己紹介から、それから共通の知人との関係を話題にした「Social talk」。そして本題に入る。これが夕食会ともなると食前酒から始まって前菜、メインコース、チーズ、デザートと進む間はほとんどずっとSocial talkのみになります。

まずは天候など当たり障りのない話から様々な会話を交わし、最近のニュース、スポーツ、趣味、家族、文化、歴史等々へと広げていきます。こうした話は決して無駄ではなく、お互いの人となりの探り合いで、こいつとは気が合うか、信頼できるか、スムーズに仕事ができるかといった品定めのプロセスと言ってよいでしょう。ですから沈黙は損なのです。コーヒが出てくる頃になってようやく「ところで…」といって仕事の中味について話が始まる。したがって、このSocial talkの部分が重要で、様々な話題、特に日本の文化や社会、ニュースなどについて一通り説明ができるよう日頃から気にしておくに役に立ちます。最近で言えば大震災や異常気象のこととか、富士山の世界文化遺産への登録などがよいでしょう。でもいざとなると「えーとっ、世界遺産って英語で何て言うのだったけ？」と、困るものですから。ただし、Social talkでは宗教と政治は避けるべき話題とされています。



#### 5. テーブルマナー

食事の話題が出たところでテーブルマナーですが、ナイフ、フォークの使い方とか、スープをズルズル吸うとか、基本的なお行儀についてここで説明するつもりはありません。ただ、ちょっとだけ気になるのはワインなどグラスの扱い方です。まず、「カンパイ！」と景気よく全員がグラスを接触させるのは日本の習慣だと思います。外国でもカチンとすることはありますが、通常は相手の目を見ながらグラスを目のちよっと下あたりまで持ち上げる、というのが無難なようです。まあ、乾杯のやり方は国によってそれぞれの習慣があることも確かで、例えば中国や韓国では乾杯というか、食事のお酒の飲み方には独特のルールがあるようです。要は、郷に入るとは郷に従えということでしょう。なお、パーティの始めにどなたかが乾杯の音頭を執った場合、一口飲んでからパチパチと拍手をするというのは日本独自の習慣だと思います。

グラスに関する話を少し続けますと、日本人は「酌」の習慣をワインやビールにも持ち込みますがこれも普通やらない。ワインのつぎ足しはソムリエ（若しくはウェーター）の役割です。そして、ワインがつぎ足されるときはグラスを持ち上げず、テーブルに置いたままネックの部分を持つ、というのが正しい仕草です。ですから逆に外国人が来日したり、あるいは外国の日本料理店で会食するとき、彼らに酌をしてあげようとしてもなかなかおちょこを持ち上げない。そんなときは日本のマナーを指導してあげてもよいでしょう。ワイングラスのマナーをもうひとつ。食事中ワインを飲むときは

できればその都度テーブルナプキンでちょっと唇をぬぐってから飲んでください。脂っこい料理などを食べながらグラスに口を付けるとグラスの淵が汚れたり、ワインが濁ったりします。これは脇から見て快いものではありません。

## 6. 控えたい習慣

国際的な幾つかの習慣について書いてきましたが、逆に、やめた方がよい日本人の習慣を幾つか。まず、日本人同士で群れるなということ。もちろん大きな国際会議ともなれば代表団もそれなりに大きくなり、代表団内部での意思疎通や情報共有はとても大事です。しかし、上に述べたようにコーヒープレイクやレセプションといった場は各国代表と接する絶好の機会なので、こうしたときに日本人同士で集まって談笑しているといった光景はいただけません。貴重なコミュニケーション機会を無駄にしているもったいない話ですし、外国代表から見れば何やら近寄り難い雰囲気を与えてしまいます。それから、大きな代表団になると必然的にエライ方が団長になり、その部下など数名がアシスタント、さらにその下に若手の「カバン持ち」がいたり、ということになります。このような「代表団」が大学病院での「教授御回診」のごとく、ぞろぞろと一団若しくは一列になって会議場に入出入りするのやめていただきたい。団として行動するより、団員がそれぞれの立場で各国代表と親交を深めてこそ国際交渉に出席する意味があります。もうひとつ、たまに目にする日本人の行動ですが、いくら上司にせかされているからといって会議場内やロビーでは決して走らないでください！



話は突然飛びますが、日本と外国で反対のマナーのひとつにくしゃみと鼻かみがあります。日本ではくしゃみに寛容で、職場や会議室なんかでも突然大声？で「ハックション！」とやられても「悪い噂でもされてるな」くらいの反応ですが、外国人はくしゃみを飲み込むというか、かみ殺すというか、音を立てない。一方、日本人が鼻をかむときは何かに隠れるようにおとなしくしますが、彼らは人前でも鼻にハンカチを当ててブーン！と大音響とともにかみます。どうも日本人は身体の構造上か、くしゃみを飲み込んだり音を立てて鼻をかんだりしよせんできないようですが、少なくともあの大声の「ハックション！」は控えましょう。

## 7. おわりに

御依頼を受けて書き出してみたらまことに脈略のない話になりました。どこかの小うるさい爺さんが文句を言っているようで、我ながらお恥ずかしい次第です。でも、こんなトリビアの一端でも知っておいていただくといずれ役に立つ日がくるかもしれません。今に始まったことではありませんが、国際交渉とか外交というのは実にやっかいなものです。そうした中で、少しでもコトがスムーズに進むよう、より良い人間関係を築くためにもちょっとした気遣い、マナーや習慣に心配りをしたいものです。

最後に、よく外国人から指摘される日本人の無礼。ドアを後から来る人のために押さえておいてくださいね。

(イラスト：松平恒和)

